



第60回男子・第54回女子プロボウラー資格取得テスト

4月5・6日=東京・品川プリンスホテルBC/大阪・ボウルアロー松原店
7・8日=東京ポートボウル/兵庫・神戸六甲ボウル

東西で男子15名、女子9名が 第1次実技テスト突破!

JPBA第60回男子・第54回女子プロボウラー資格取得テストの第1次実技テストが4月5～8日の4日間、東西の4会場で開催された。受験者は男子37名(東18・西19)、女子13名(東9・西4)の計50名。

新型コロナウイルスの感染拡大が高止まりするなかで、今年も無観客(親族・コーチを含むすべての観戦が不可)での開催となり、受験者はマスクを装着しての過酷なローンバトルを強いられた。

4日間で規定のゲーム数(男子60G・女子48G)を完投し、合格基準点(男子1万2000点=200Avg/女子9120点=190Avg)をクリアして第2次実技テスト進出を果たしたのは、男子15名(東9・西6)、女子9名(東9・西0)の計24名(別表参照)。最高得点は男子が鈴木彪雅さん、女子は大熊飛鳥さん、最年少通過者は男子17歳・女子18歳、同最年長は男子38歳・女子40歳だった。

第2次実技テストの受験者は

男子21名・女子12名の1次免除者を加えた計57名で、すでに2日目までを終了(4月26・27日=大阪・牧野松園ボウル)。残る2日間は5月16・17日に都内王子のサンスクエアボウルで行われる。

両手投げの受験者は10名

今年増えたのは両手投げの受験者だ。1次テストでは東西合わせて10名(男9・女1)が両手投げで、うち男子の5名(東2・西3)が2次進出。1次免除者のなかにも6名(男5・女1)いて、計11名は左投げの6名(男

4・女2)を上回る。ちなみに、東日本会場の6位で1次を突破

した山崎泰樹さんはサウスポー

男子5名・女子2名の現・前ナショナルチームメンバーが名を

連ねており、その合否も注目される。今年度プロテストの最終

結果は次号にて詳細します。



▲1次テスト最終日の会場風景。今年も無観客での開催となり、受験者には4日間投げ続ける体力とともにタフなメンタルが求められた(4月8日、東京ポートボウル)

プロボウラー資格取得テスト第1次合格者

<東日本・男子>

順位	氏名(期別)	登録地	利腕	スコア	アベレージ
1	鈴木 彪雅	東京	右	13,433	223.88
2	小野 在由	東京	右	13,137	218.95
3	千葉 幸太	静岡	右	12,917	215.28
4	福島 和也	埼玉	右両	12,818	213.63
5	上屋敷佑弥	埼玉	右	12,796	213.26
6	山崎 泰樹	埼玉	左両	12,697	211.61
7	田村 優樹	北海道	右	12,674	211.23
8	金子 猛	新潟	右	12,635	210.58
9	齋藤 修平	千葉	右	12,233	203.88

<西日本・男子>

1	河内 唯斗	石川	右	12,890	214.83
2	松崎 清雅	愛知	右	12,708	211.80
3	菊田 樹	愛知	右両	12,188	203.13
4	増田 高英	岐阜	右両	12,186	203.10
5	藤崎 周	大阪	右両	12,143	202.38
6	太田 貴久	和歌山	右	12,046	200.76

<東日本・女子>

1	大熊 飛鳥	埼玉	右	10,075	209.89
2	坂野二イナ	茨城	右	10,068	209.75
3	内田 雪月	埼玉	左	10,059	209.56
4	中嶋 由美	千葉	右	9,880	205.83
5	岩淵 萌香	千葉	右	9,638	200.79
6	森 ひかり	神奈川	右	9,622	200.45
7	美齊津理子	長野	左	9,489	197.68
8	宮入 梨緒	長野	右	9,458	197.04
9	三上 彩奈	茨城	右	9,398	195.79

※西日本・女子は合格者なし



▲アイキョーボウルをホームとする2名がそろって1次突破。中嶋由美さん(左)はLBO(日本女子ボウリング機構=2013年解散)チャーターメンバーのひとり、覚悟のJPBA再挑戦。右の岩淵萌香さんは第3回次世代P★リーガー発掘プロジェクトの合格者で、晴れて合格のあかつきにはP★Leagueデビューが約束されている



▲東日本会場で1次を突破した両手投げの2名。左の山崎泰樹さんはサウスポー、右の福島和也さんは17歳の現役高校生だ

FOCUS UP オーバー60エイジの“ボウリング大好き芸能人”が「本気」のプロテスト挑戦!



▲黒田アーサーさん(左)と近藤信秋さん

黒田アーサーさん(61歳)とBro.KORNこと近藤信秋さん(66歳)。今年の第1次実技テストでいちばんの注目を集めたのは“ボウリング大好き芸能人”として知られるお二人の、「決して遊び半分ではない」果

敢なチャレンジだった。

☆

黒田さんは“還暦のプロテスト初挑戦”が話題となった昨年に続いての受験。30G5155=171.83Avgで2日目の足切りにあった昨年のリベンジを期

したが、結果は同5307=176.90で、今年もホームセンター(東京ポートボウル)への“凱旋”はならなかった。

「去年よりアベレージは上がって、少しは進歩しているという実感はあったけど、まだまだ足りないですね。途中、3ゲームで400いかないシリーズが2度くらいあって、そのときはもうどうしたらいいかと(苦笑)。他の受験者と“引き出し”の数が違いすぎる。もっと経験値を上げていかないとダメですね」

一方、今年が初挑戦の近藤さんも同4823=160.76で玉砕。しかしながら全受験者中の最高齢で2日間30Gを完投した体力と気力は「あっぱれ!」というしかない。

「受験はアーサーに感化された部分もあるけど、ボク自身プロテストの雰囲気を知ってみたいかったし、ボウリングを職業にしようと思って受けている若い人たちのボウラーマインドも感じてみたい。で、やっぱりすごいな、ハンパねえな、と。

最初は打てなくて恥ずかしいなという思いもあったけど、投げているうちにどんどん楽しくなった。テストなのに(笑)」

思い知った「プロのすごさ」

そんなお二人が「改めて思い知った」と口を揃えたのが「プロのバッジ(ワッペン)を着けている人たちのすごさ」だ。

「われわれも決して遊び半分で受けにきたわけじゃない。真剣に投げたし、本気で受かるつもりだった。でもやっぱりレベルが高い。そのテストをクリアしてプロになった人のすごさを、競技ボウリングを知らない人たちにも分かってもらいたい

し、それを伝えていくこともわれわれの役目だと思っています」(黒田さん)

足切りが確実となった後も投げやりにならず、ラストゲームでは黒田さん201、近藤さん213と、ともに200アップのスコアをマーク。「今回は一時186までアベレージが上がって、ちょっとチャンスが見えた瞬間もあったので、来年こそは合格ラインを見据えて投げたい」と黒田さんが言えば、近藤さんも「体がもてば、ボクも来年また受けようと思っている」と再挑戦の意向を示す。

お二人のあくなきチャレンジスピリットに、乾杯!



▲ラストゲーム中のお二人。ともに200アップで有終の美